

Newsletter

AQSiS

N°06

2025年
3月



セネガル国看護師・助産師の臨床実習の質向上プロジェクト



成果共有会合を実施しました

2025年1月21日に、プロジェクトの3年間の成果に関係者に共有するため「成果共有会合」を実施しました。保健省次官、人材局長による進行の下、保健省、12州の州保健局、全ての州保健研修センター、私立保健人材養成校組合、研修講師を務めた対象州の保健医療施設、私立人材養成校の関係者、職業訓練省、国立保健社会開発学校（ENDSS）など、計105名が参加しました。

冒頭の保健省次官およびJICAセネガル事務所次長による開会のスピーチでは、プロジェクトを支える人々の積極的なコミットメントと、プロジェクトにおけるJICAと保健省の協力に対する感謝の言葉が述べられました。その後、AQSiSの3年間の活動を振り返り、プロジェクト目標と成果の達成度の共有、プロジェクトを実施する中で確認された好事例や教訓などを共有しました。

全体のディスカッションでは、プロジェクト終了後の活動の持続戦略の協議がなされました。参加者による活発な議論が行われ、多くの参加者が、プロジェクトが臨地実習の課題に対応したことを高く評価しました。プロジェクト活動の継続のために、全国への行政文書と教材の普及のための研修や、持続性を担保するために年間計画や予算を組み入れること、州協議枠組みを通してプロジェクト終了後のモニタリングを継続することなどが提案されました。

また、プロジェクトで作成/改訂した行政文書・教材の現場への導入のため、重要な役割を果たした研修講師の活動への貢献と功績を称え、人材局長とプロジェクトより、感謝状の授与を行いました。

閉会にあたり、人材局長から臨地実習の質の向上のために、プロジェクト期間中に様々な関係者が行った全ての努力を賞賛しました。また、AQSiSプロジェクトの持続可能性を確保する観点から、会議で得られた提言を今後考慮することを明言しました。



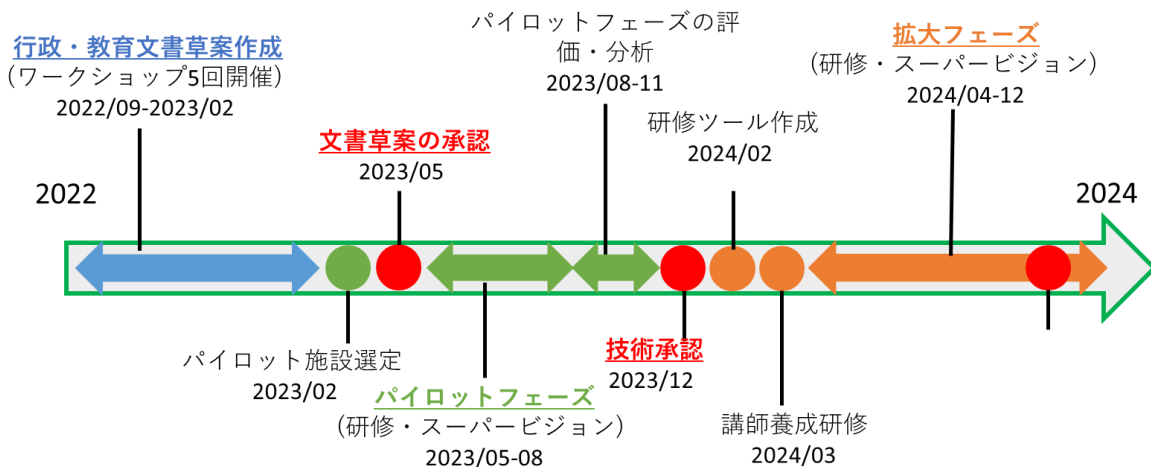
証明書を受け取った研修講師



会議参加者の集合写真

3年間の軌跡

プロジェクトは、三つのフェーズ（①行政文書・教材作成フェーズ、②パイロットフェーズ、③拡大フェーズ）に分けて実施しました。各段階で文書の内容、研修、臨床実習の実施を評価し、養成校、保健医療施設での指導に効果的な文書に修正し、臨床実習の質を高めました。また、各フェーズで実施した行政文書・教材草案の承認、技術承認、保健省承認では、対象州以外の多くの関係者を招集し、参加型のアプローチにより関係者の合意形成を図りました。また、全国協議枠組み、州協議枠組み、臨床実習委員会（COGES）など調整枠組みを設置し、臨床実習の課題とその対策を議論できる場を設け、より質の高い臨床実習を目指すための体制を構築しました。さらに、他仏語圏アフリカとのワークショップを行い、セネガルのグッドプラクティスの共有や、情報交換を行い西アフリカ保健機構（WAHO）全体の臨床実習の質向上にも寄与しました。



全国協議枠組み会合

2024年10月17日に、第1回全国協議枠組み会合を保健省次官の議事進行のもと開催しました。会議では、①プロジェクト活動の現状、②協議枠組みの仕組み、役割、構成メンバーの説明、③臨床実習の課題についての協議、④プロジェクトで作成した行政文書・教材の保健省承認が、行われました。多くの参加者から行政文書の策定の利点や教材の標準化とその内容の重要性など、肯定的な意見が多く挙がりました。結果、事務次官は2つの行政文書と9つの教材に対して、保健省承認を宣言しました。これにより、プロジェクトで作成した文書が、国家文書として、セネガル全土で使用されることが認められました。参加者からはプロジェクトの対象州以外の12州でも、早急に文書の導入を進めるべきだという意見が挙がりました。

会議では臨床実習に関する様々な課題が議論されました。次官により、私立養成校の認可に関する課題について、省庁を超えた協議をすること、実習受け入れの際の謝金の問題は人材局と保健施設総局間で協議すること、全国協議枠組み会議を半年に一度、州協議枠組みは3カ月に一度の頻度で開催することなど、提案事項がまとめられました。さらに次官は、活動の普及を協議するため各州保健局とのオンライン会議を実施するよう人材局長に提案し、プロジェクト終了後の展望が示されました。



全国協議枠組み終了後の集合写真

保健社会活動省人材局長からのメッセージ

AQISプロジェクトは私たちにとって非常に重要であり、学生や実習指導者のための文書を作成し、学習環境の改善に大きく貢献しました。私は成功の要因は3つあると考えます。一つ目は、養成校や実習指導者や、臨床実習の調整に関わる関係者が積極的にプロジェクトの活動に参加したこと。二つ目は、研修課職員がJICAと協力し、尽力したこと。三つ目は、JICAによる技術的、財政的、物資的な支援があります。今後の目標は、プロジェクトの成果を持続可能なものとするです。作成された文書をどのように現場に定着させていくかを検討する予定です。人材局は、プロジェクト活動を長期的に維持するために活動を継続します。



マリック ジャロ
保健社会活動省人材局長

1. 拡大ワーキンググループ

12月26日、人材局長が議長をつとめ第3回拡大ワーキンググループ（GTE）を実施しました。会議の目的は、プロジェクト目標の指標の定義とプロジェクト成果の達成状況の確認です。プロジェクト目標の指標「国家承認された行政文書・教材に基づいて臨床実習を実施」の定義について、協議の結果、スーパービジョングリッドの「計画調整」と「実習指導」の大項目のスコアがそれぞれ60%以上と決定しました。この定義に基づく、「計画調整」は83%の養成校が基準を満たした一方で、「実習指導」については57%の養成校にとどまり、プロジェクト目標は「一部達成」という結果になりました。実習が再開し、州や保健区によるスーパービジョンを継続すれば、目標は確実に達成できるため、プロジェクト終了後のスーパービジョンの強化を目指すことになりました。



スーパービジョンの結果を説明する研修課職員

成果および活動	達成状況
プロジェクト目標：直接介入州の養成校が行う看護師・助産師教育における臨地実習の実施体制が強化される	
指標 プロジェクトで作成／修正し、国家承認された行政および教育文書に基づいて臨地実習を実施している看護師・助産師養成校の割合が、2024年までに直接介入州の80%以上になる	【一部達成】
成果1：直接介入州における養成校と保健医療施設の連携が強化される	
指標 1.1 2022年末までに国レベルの協議枠組みが設置される	【達成】
1.2 2022年末までに州レベルの協議枠組みが設置される	【達成】
1.3. 2024年までに協議枠組みを持続させるための戦略が作成される	【達成】
1.4プロジェクトにおいて臨地実習のために作成／修正した行政文書の数、2024年までに2つ以上になる	【達成】
1.5非直接介入州向けの経験共有ワークショップを少なくとも1回、2024年までに開催する	【達成】
成果2：教員および実習指導者が、臨地実習の実施体制に関して訓練を受ける	
指標 2.1. 臨地実習の実施体制に関して訓練を受けた教員の数、2024年までに78人以上になる	【達成】
2.2臨地実習の実施体制に関して訓練を受けた実習指導者の数、2024年までに研修対象者の80%以上になる	【達成】
2.3国家承認された行政および教育文書を使用しプログラムの基準および要件に従ってスーパービジョンを実施した常勤の教員の数、2024年末までに40人以上になる	【達成】
成果3：セネガルと他仏語圏アフリカ国の間で臨地実習運営実施に関するグッドプラクティスと経験が共有される	
指標 3.1. 臨地実習のグッドプラクティスと知見に関する報告書が作成される	【達成】

2. 仏語圏アフリカ広域ワークショップ

セネガル以外の仏語圏アフリカの国々も、臨床実習に関する様々な課題を抱えています。これまでの活動から得られた、セネガルの看護・助産教育の臨床実習に関するグッドプラクティスをこれらの国々と共有するため、仏語圏アフリカ諸国によるオンラインワークショップを2回実施しました。ワークショップには、12の仏語圏アフリカ諸国（ベナン、ブルキナファソ、コートジボワール、ガボン、ギニア、マリ、モーリタニア、ニジェール、セネガル、トーゴ、コンゴ民主共和国、ブルンジ）が参加し、セネガルの経験共有に加えて、各国の課題の共有や、それに対するアクションプランの作成を行いました。

第1回経験共有ワークショップ（2024/07/29-31）では、12カ国から59人の参加が得られました。1日目はAQSYSと国際NGO IntraHealthのClass room to Careプロジェクトの活動を報告し、2・3日目は各国のアクションプランの発表を受けて参加者間で活発な議論が行われました。第2回ワークショップ（2024/10/16）では、各国のアクションプランの進捗状況について情報交換をしました。事後アンケートでは、「好事例からの学びは有益でした」、「経済水準や状況が近い国同士の意見交換ができて有意義でした」など肯定的な意見が聞かれました。今後も仏語圏アフリカのネットワークを活かし、地域全体の臨床実習の質を改善することを参加者間で確認しました。



13カ国がオンラインワークショップに参加

3.スーパービジョン

2024年9月から11月にかけて、拡大研修終了後、研修受講者による研修非受講者への研修内容の共有、教材の導入状況、および実習調整や実習指導の状況を確認するため、スーパービジョンを実施しました。44養成校、19病院、37保健センター、72保健ポスト、2助産院にスーパーバイザーが訪問しました。

ほぼ全ての養成校で、研修内容と行政文書・教材を研修未受講者への共有、学生へのオリエンテーションと教材の配布をしていました。また、90%の学生はポートフォリオを利用しており、2年生以降から使用する看護記録や症例記録は、40-50%の学生が利用していました。教材に対して88%の学生が「とても満足」、あるいは「満足」と回答しており、プロジェクトの成果が現場に浸透していることが確認できました。



ポートフォリオの記入内容を確認し、改善点について
学生に説明するスーパーバイザー
(サンガルカム保健センター)

4.州協議枠組み、年間活動計画作成会議



ンブール保健区での実習年間計画策定会議

ディエス州では、第2回州協議枠組みを実施しました（2024/07/12）。実習調整のためのウェブアンケートの回収率があがらないことを受けて、ンブール保健区、ンブール病院にて試験的に年間計画作成を支援しました。ンブール保健区は、区内の保健センター、保健ポストでの実習を網羅した合意書を養成校と交わしました。保健センター、保健ポストの実習受け入れ可能人数を確認後、実習を希望する養成校を一堂に集めて年間計画を作成しました。また、ンブール病院では、各診療科の実習生受け入れ可能人数を確認後、同様に養成校を一堂に集めた会議を実施し、年間計画を立てる予定です。この結果は、第3回協議枠組み（2025/01/10）で共有され、その他の保健区でも同様の実習調整を行うことになりました。

ダカール州では、第2回協議枠組みを実施し、ンブール保健区、ンブール病院の年間計画作成の経験共有をしました（2024/11/27）。ルフィスク保健区は、同様の年間計画作成の活動を開始し、年間計画を作成しました（2025/01/08）。このモデルは実習調整を効果的に行えるとのことで、その他の保健区、病院でも実施していくことになりました。

5.終了時評価

2024年12月4-17日でプロジェクトの終了時評価を実施しました。これまでの報告書などのレビューに加えて、プロジェクト活動に関わった17の保健行政機関、養成校、保健医療施設にインタビューを行いました。評価の結果、計画を上回る正のインパクトが確認されました。例えば、コンピテンシーアプローチに基づき、学生が目標を自身で設定することにより、自立性が向上し、より積極的に実習に取り組むようになったこと、実習調整が効率化され、指導者が患者へのサービスに充てる時間が確保できるようになったこと、学生の実習中に医療ミスが減ったこと、実習受け入れを依頼する立場の養成校が、保健省承認された文書を根拠に実習環境について保健医療施設と対等に議論できるようになったことが挙げられました。さらに、プロジェクトで作成した文書は准看護師の研修にも活用されており、看護師、助産師の研修方法が医師の研修にも応用可能であるという声も挙げられました。



終了時評価のインタビューを実施
(ディエス州保健局)